杉並区

大宮二丁目自治会

事業名 合同防災訓練と多文化共生社会づくり

事業概要

●隣接町会である大宮会との共催により、首都直下型地震を想定した合同防災訓練を実施。ハロウィン行事と連携させることで、親子連れの参加を促した。

●訓練告知ポスターは英語版を用意し、在住の外国人にも参加を案内。訓練会場では外国人や子供にもわかりやすいようひらがな表示を行い、参加者同士の交流につなげた。

実施期間　令和４年６月５日～11月13日

参加人数　合同防災訓練参加者　205名

事業総額　約49万1,100円

（地域の底力発展事業助成金　47万9,000円）

役割分担

《スタンドパイプ放水訓練（3名）》消防団員（大宮会会長）が訓練指導。町会員が補佐。

《AED操作訓練（２名）》町会員２名が訓練受付を担当（指導は消防職員）

《会場設営、受付、防災物品の操作指導等（10名）》大宮二丁目町会・大宮会より計10名が訓練の進行、防災倉庫内備品の操作等を指導

事業の開始から終了までの主な流れ

令和４年

６月５日　拡大役員会にて事業申請を承認
７月10日　合同防災訓練と多文化共生社会づくり計画案作成
７月23日　第１回打合せ、助成事業の説明
９月30日　自治会だよりで合同防災訓練実施予定を告知
10月８日　物品購入手配、印刷物準備開始
10月20日　自治会掲示板、役員宅に合同防災訓練告知ポスターを掲示
10月23日　第２回打合せ
10月30日　ハロウィン行事で合同防災訓練への参加を呼び掛け
11月１日　自治会会員外の世帯を訪問し、合同防災訓練への参加を呼び掛け
11月３日　第３回打合せ
11月５日　自治会内を車で巡回し、合同防災訓練への参加を呼び掛け
11月６日　合同防災訓練の実施
11月13日　反省会

主な経費（助成対象）

● 打合せ経費　ペットボトルお茶

● 物品購入費

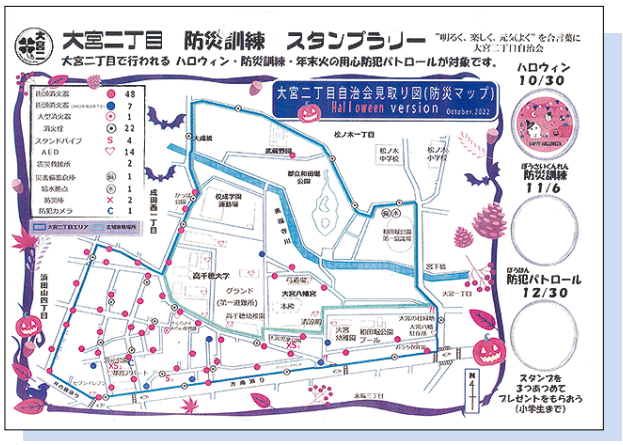
安否確認訓練用タオル、マンホールトイレ・テントセット、ワンタッチトイレセット、備蓄ラジオライト、防災訓練用ブルゾン・キャップ、スマートエージェンシーボトル（参加賞）、単四乾電池（参加賞）、参加者水分補給用飲料　等

● 印刷経費

多文化共生推進チラシ、安否確認訓練協力依頼チラシ、大宮二丁目防災マップ

● 役務料　イベント傷害保険

● レンタル・リース料　打合せ会議室使用料



ハロウィンで子供たちに配布した防災マップ。スタンプラリーを取り入れ防災訓練への参加を呼び掛けた

事業の実施内容

首都直下地震を想定した合同防災訓練の実施

大宮会との合同防災訓練は令和４年度で４回目。区・消防・警察などの協力を得て、安否確認訓練、放水訓練、ＡＥＤ操作訓練、簡易トイレの設営訓練等を行った。

訓練実施に当たり、参加者募集に力を入れた。自治会だよりや掲示板での周知のほか、自治会会員以外のお宅を訪問し、訓練の案内チラシをポスティングして参加を呼び掛けた。また、訓練の1週間前に子供向けハロウィン行事を開催。「合同防災訓練・年末の防犯パトロールに参加してスタンプをもらうと参加賞がもらえる」というスタンプラリーカードを兼ねた防災マップを子供たちに配り、訓練への参加を呼び掛ける工夫も初めて行った。

また、多文化共生社会づくりに向けた取組も実施。訓練では、外国人や子供にもわかりやすいように、ひらがな表示の案内板を掲示した。周知においても、英語版の合同防災訓練告知ポスターを自治会内の掲示板に掲示したほか、外国人在住のシェアハウスにも配布。これにより外国人住民が訓練に参加し、ＡＥＤの操作訓練などを一緒に行った。

さらに、玄関前などに黄色いタオルを掲げて無事を知らせる安否確認訓練では、自治会が把握している高齢者世帯でタオルが出ていない場合には声がけを行い、高齢者の見守り活動にもつなげた。

地元公園を拠点に実施した合同防災訓練の様子。右は英語版の合同防災訓練告知ポスター

事業による成果・効果

周知の工夫により訓練参加者が倍増
外国人も参加し多文化共生社会づくりの第一歩に

「私たちの自治会では、大宮会と力を合わせ、子供から高齢者まで各世代が参加できる活動に力を入れています。年齢層ごとに取組を工夫していますが、今回、子供ハロウィン行事と連携させたことで良い効果が生まれたと思います。合同防災訓練の参加者が205名と前年度に対して倍増しました」と会長の飯田さんは笑顔を見せる。防災訓練1週間前に実施した子供ハロウィンに参加した90人のうち、約５割の43人が防災訓練にも参加。親子連れで参加する世帯が増えた。

また、自治会会員以外の世帯にも周知したことにより、訓練をきっかけに３世帯が自治会に新規加入。外国人在住のシェアハウスにもチラシを配布したことで外国人住民も訓練に参加するなど、多文化共生社会づくりの第一歩にもつながった。

事業を振り返って

若者や近隣の団体など多くの協力に感謝
取組の継続を目指す

「今回、大学２年生をリーダーとした小学６年生までの有志９名が、事前の準備段階から当日の会場設営や運営、後片付けに至るまで率先して活躍してくれました。将来の自治会の担い手として多いに期待できます」と会長の飯田さん。また、「訓練では毎年、行政関係のほか、近隣の高千穂大学やスーパー、コンビニも協力してくれ、感謝しています」と語る。

「AEDの操作にしても一度習っただけでは忘れてしまう。地域で連携し、継続的に続けていきたい」と話す。

「より安心して安全に暮らせる地域へ、絆づくりを進めたい」と会長の飯田さん